

巻頭言

愛媛県立三崎高等学校

校長 川本 昌宏

本校は、平成31年度（令和元年度）より文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、研究を続けています。同事業は、新高等学校学習指導要領を踏まえ、地域を分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての機能強化を図ろうとするものです。同事業では3つの類型が設けられていて、本校が指定されている「地域魅力化型」は、地域ならではの新しい価値を創造する人材を育成することを目的としています。

令和元年度の取組として特筆すべきは「せんたん劇場」でしょう。この企画は、佐田岬半島に多数ある集落のうち大久地区に注目し、同地区を一つの劇場に見立て、地域の方々とみさこう生（「みさこう」は三崎高校の愛称）が交流する場となるように企画されており、イベントを経験することで、それまで班に分かれて研究してきた生徒たちはお互いの研究内容を確認し合うこともでき、さらに、生徒たちが同地区の特徴や価値に気付いていくことができるものとなっています。また、「第3回せんたんミーティング」も開催されました。同ミーティングは、県内外7校の高校生たちが三崎に集まり、地域の課題発見やその解決策について話し合うものです。こういった活動のほかにも数々の取組を実行しており、どの取組においても、みさこう生たちは「地域を元気にしたい」「学校を存続させたい」という熱い想いを込めて活動しました。

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、先述の「せんたん劇場」「せんたんミーティング」とも実施することができませんでした。しかし、生徒たちの想いは揺るがず、オンラインの活動を含め、できる限りの活動を展開しました。そしてその成果の一部として、「えひめ地域づくりアワード・ユース最優秀賞」「EGF キャンパスアワード優秀賞」等の受賞があり、「コロナ禍だろうが、先輩たちから受け継いできたバトンを決して失わず、後輩の手にしっかりとつなげよう」という生徒たちの意地のようなものを感じました。今年度の活動は他にも多くありますが、志願者数の倍増により県内外の多様な地域から入学した1年生たちがさわやかに活動し、学校が一層活気づいたことと、視察等を通して県内外の高校や大学等との新たなつながりが生まれてきたことは特に印象的でした。

このように、時代の流れとともに活動の形は少しずつ変わりますが、「新たな価値を創造する人材」が育成されるためには、みさこう生一人一人が課題を自分ごととして捉え、自身の中に熱い想いを育てながら活動することが必須です。来年度こそは感染症の流行が終息し、みさこう生たちが伸び伸びと「やりたいこと」にチャレンジできる年になることを願って、巻頭のごあいさつといたします。